

## 埼玉県東部から東京都低地帯にかけての「沖積層」の堆積環境

## Spatiotemporal change of sedimentary environments of the incised-valley fills in the Tokyo lowland, central Japan

# 石原 与四郎[1], 宮地 良典[1], 木村 克己[2], 中島 礼[3], 中山 俊雄[4], 八戸 昭一[5], 堀 和明[6], 田辺 晋[7], 中澤 努[8], 斎藤 文紀[9]

# Yoshiro Ishihara[1], Yoshinori MIYACHI[2], Katsumi Kimura[3], Rei Nakashima[4], Toshio Nakayama[5], Shoichi Hachinohe[6], Kazuaki Hori[7], Susumu Tanabe[8], Tsutomu Nakazawa[9], Yoshiki Saito[10]

[1] 産総研・地質調査総合センター, [2] 産総研, [3] 産総研・地球科学情報, [4] 都土木技研, [5] 埼玉県環境科学国際センター, [6] 学振, [7] 新潟大・院・自然科学, [8] 産総研・地球科学, [9] (独)産総研・海洋資源環境

[1] Geological Survey of Japan / AIST, [2] Geological Survey of Japan/ AIST, [3] GSJ-AIST, [4] Institute of Geoscience, AIST, [5] Institute of Civil Engineering of T.M.G., [6] Center for Envir. Sci., Saitama, [7] JSPS, [8] Graduate School of Sci. and Tech. Niigata Univ, [9] GSJ, AIST, [10] MRE, AIST

埼玉県東部から東京都にかけての中川流域は、最終氷期に形成された開析谷とそれを埋積する「沖積層(ここでは、最終氷期に形成された開析谷を埋積する堆積物を沖積層とする)」が厚く分布する。一般にこれらの「沖積層」は、下位から河川成の Basal Gravel (BG), 河川～汽水成の砂層・泥層からなる「七号地層」、内湾環境を示す泥岩の厚い「下部有楽町層」、主として砂層からなる「上部有楽町層」の順で重なるとされている(引用)。しかしながら、七号地層/有楽町層境界の問題や、これらの層の詳細な形成年代および、この開析谷を埋積する「沖積層」全体を堆積学的に検討を行った研究は少なく、その解釈にはいまだ多くの問題点が残されている。これらの問題の解決には、この「沖積層」の堆積環境の復元とその詳細な形成年代とを組み合わせることで検討してゆくことが必要となる。

本研究では、東京都江東区から埼玉県草加市にかけて行われた 6 本のボーリングコアを堆積学的に検討し、それぞれ堆積環境の復元およびその層序的变化を明らかにする。各層序ボーリングはそれぞれ東京都土木技術研究所によって実施された層序ボーリング(4 本)および産業技術総合研究所によって実施された層序ボーリング(2 本)である。これらのボーリングコアに対し、堆積構造・堆積相の記載、含泥率、貝化石の記載、計 100 以上の AMS 炭素 14 年代を得て、この地域における「沖積層」の層序的・空間的な堆積相の変遷について復元する。